

第51回全国大学かるた連盟総会議事録

日時:平成22年3月26日
場所:江戸川区スポーツセンター2階管理室

開会
出欠:加盟大学の3分の1以上の出席、委任状を満たすので成立

議長の選出
塚(事務局長・早稲田3):議長は倉塚が務めたいと思うが賛成の方は挙手を願いたい。
→承認

第一号議案:平成22年度新役員選出
塚:来年度の大学連盟の人事を以下のようにしようと思うが賛成の方は挙手を願いたい。

会長:平林孝太(東大2)
副会長:谷俊彦(慶應1)
副会長:井上陽平(九州2)
会計:宮下真佐子(東京女子大2)
会計監査:倍賞弘平(東北2)
事務局長:町田孝美(お茶大2)
事務局員:山口泰弘(早稲田1)
事務局員:本多清礼(慶應1)
事務局員:磯川笙子(東大1)
HP担当:松田孟留(東大2)

→承認

第二号議案:平成22年度予算案
塚:全国連盟の予算案は例年出していないが、これは問題なので、8月までに作成する。
→承認

続いて関西連盟から予算報告をお願いする。
北脇(関西会長・京大3):関西連盟の方から予算報告を行う。平成22年度の関西連盟の予算請求は予算請求額一覧(別紙)にあるとおりである。
→予算請求内訳の確認。質問なし。

第号議案:第16回全日本大学かるた選手権大会の会計報告
塚:第16回全日本大学かるた選手権大会の収支報告を野福より報告する。
野福(会計・法政3):会計資料(別紙)にあるとおりである。

第四号議案:学生選手権について
塚:今年度に入り大会参加者が急増しており、これにより学生選手権では、会場に人が入りきらない、進行が遅れるといった問題が発生すると考えられる。そこで、ABCとDEの別日程開催やE級の他会場開催について探してきたが、前者は大会参加の機会が減るということで高校連盟からの不満が根強い。後者は暁星高校の田口先生より、建て替えまでの2年間だけ暁星の校舎が使えるよう交渉してみようと言って頂いた。この案について、意見を聞きたい。
藤原(東大2):東北・関西の意見を聞きたい。
倍賞(東北2):暁星で審判をする場合、大会には参加できないのか。
塚:準備は関東だけで可能だが当日の協力は不可欠なので、審判をお願いする場合はそのようになる。
松田(HP担当・東大2):表彰はどのように行うのか。
塚:E級の会場で副会長が行う。また、足りない札は静岡県的高校にお願いすればよいが、人手はどうしても不足する。
倍賞:読手はどうするのか。
塚:高校の先生に依頼するか、学生から出す。
北脇:人数の多い大学なら当日の役員を出しても構わない。関西は協力に前向き。
塚:九州は東北・関西に比べて地理的にも厳しい。
伊藤(神戸3):大学選手権では当日のみだがOBに協力してもらっている。学生でもOBの手を借りるのはどうか。
塚:職域で忙しく、また土曜日で大勢は期待できない。関東ではOBとの繋がりが希薄。
このままの形で進めていく方向でよいか。
→承認

第五号議案:大学選手権について

①新人戦について

・65名以上の場合どうするか。

北脇:分割でよいと思う。
平岡(会長・東大3):優勝カップが1つしかない。
塚:持ち回りなので新たに買うのは難しい。
藤原:やはり新人王は1人に決めたい。
倍賞:分けるのはいいが新人王は1人がよい。
塚:64人を切るのには厳しい。7回戦まで行くとコンパに被ってしまう。天津乙女方式(優勝が複数・MVPをつくる)がいいと思う。
北脇:新人戦のみ開会式裏で試合を開始するのはどうか。
塚:時間が早すぎる。7:30や8:00開始になる。
倍賞:団体戦の裏で行うのはどうか。
塚:個人戦当日に来る人には厳しい。朝早く始める場合、運営自体は問題ないが、遅刻など時間が問題である。
北脇:勸学館に宿泊する人は8:00でも大丈夫。
塚:当日入りする兵庫・和歌山が問題。また、64人を超えなかった場合に集合が変わるので、案内の出し方難しい。
北脇:当日の申し込みもある。
塚:やはり新人王を2人にするのが簡単。トロフィーはレプリカでもよい。朝早く始めて7回戦行か、新人王を2人出すか、決をとりたい。
→新人王を2人とする案に賛成多数。次回以降実施。

・敗者復活戦の是非

伊藤:新人は東京の人と取る機会が少ないのでやった方がいいと思うが、交流戦として取りたい人で取るのがいいのでは。
船木(お茶大2):やった方がいい。他地域の人と取るいい機会になる。大会として無理なら交流戦でもよい。
平岡:取りたい人が集まって交流戦の形でやれば進行にも影響がない。順位差をつけることもない。
塚:時計台や幼稚園などの他会場でやればよい。

敗者復活戦を行うか交流戦を行うか、決をとりたい。
→交流戦を行うことで満場一致。

②院生の出場資格について

伊藤:人数が急増する。会場の問題もある。

塚:そこまで増えないのでは。

北脇:院生が出場可能となると、役員が減って困る。

平岡:現状でいいのでは。

伊藤:医・歯・薬も一律で4年にするのはどうか。また、この出場資格は団体戦にも適用されるのか。

塚:団体にも適用される。決をとりたい。夏の総会に持ち越すか、一律4年にするか、現状維持か、修士も出場可とするか。

→夏総会に持ち越し。

③運営について

塚:関西の大学かるた会が盛んになっている今でも、大学選手権の仕事を関東がやっているのは。トロフィー発注や受付など、仕事の一部を関西に少しずつ移していきたい。

北脇:関西連盟は受け入れるが、引き継ぎをしっかりとってほしい。

塚:当事者間でしっかり行えばよい。

→承認

第六号議案:連盟規約の改正について

塚:全国大学かるた連盟は現在まで昭和60年代に制定された規約をもとに活動してきた。しかし内容が現在のかるた界の在り方と大きく乖離しているため、現状に見合った形に改正していきたい。

事務局を中心に案作り→全体に案を報告→各大学が意見を述べる→総会で議論→可決

このプロセスでよいか、意見を聞きたい。

北脇:加盟・準加盟に拘わらず意見を言えるようにしてほしい。

塚:その方がすっきりする。このプロセスで改正の方向でよいか。

北脇:もう1サイクル必要ではないか。

塚:急ぐものではないので、再来年度の夏の公布を目指してサイクルを重ねる。

→承認

閉会